

的確な穂肥診断で、もみ数を制御して高品質米を作ろ

1 6月20日現在の稲姿

- 草丈は並ですが依然として茎数は多くなっています。
- 出穂期は、平年に比べ2日程度遅くなる見込みです。(前年より4~5日遅い)

【6月20日現在の生育概況：平坦地管内平均】

※()内は、測定値：指標値との比較

品種	草丈	茎数	葉数	葉色(SPAD値)
こしいぶき	やや短(33cm:91%)	多い(407本/m ² :113%)	やや少(8.5葉:-0.5葉)	並(40.3:-0.8)
コシヒカリ	並(34cm:98%)	多い(456本/m ² :130%)	並(8.4葉:+0.3葉)	並(39.2:-0.3)

2 品種別出穂予想と穂肥時期のめやす(6月20日現在の予想日)

品種	出穂予想日	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量(kg/10a)
		時期	出穂前日数	時期	出穂前日数	
新潟次郎	7月20日頃	6/20 ~ 6/25頃	30 ~ 25	7/6頃	14	6
五百万石	7月23日頃	7/3頃	20	7/11頃	12	1~2
つきあかり	7月27日頃	7/2頃	25	7/13頃	14	3
わたぼうし	7月28日頃	7/6 ~ 7/8頃	22 ~ 20	7/16 ~ 7/18頃	12 ~ 10	2~3
こしいぶき	7月31日頃	7/8頃	23	7/17頃	14	2
こがねもち	8月3日頃	7/16 ~ 7/19頃	18 ~ 15	7/24頃	10	1~3
コシヒカリ	8月6日頃	7/19 ~ 7/22頃	18 ~ 15	7/27頃	10	1~2.5
いただき	8月10日頃	7/16頃	25	7/27頃	14	6
新之助	8月11日頃	7/21 ~ 7/24頃	21 ~ 18	8/1頃	10	2
越淡麗	8月11日頃	7/24頃	18	8/1頃	10	2
みずほの輝き	8月14日頃	7/20頃	25	7/31頃	14	3

- ◎ 稚苗5月10~15日頃、中苗5月15~20日頃に移植した場合を想定。
- ◎ 今後の天候で前後する場合がある。

3 穂肥診断のポイント ~ほ場ごとに自己診断しよう!~

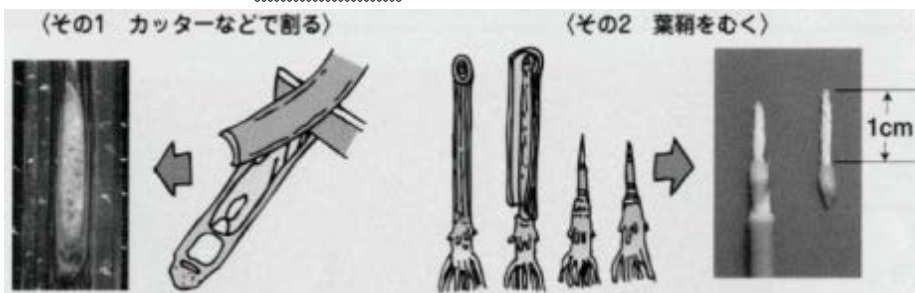
- 穂肥は、下記の手法で必ず稲の生育診断を行うとともに、天候や病害虫の発生状況及び地力等を総合的に判断して決める。
- 穂肥施用時は浅めに湛水し、その後は飽水管理を継続しましょう。

(1) 穂肥診断の手順 (幼穂長で施用日を決め、草丈と葉色で施肥量を判断する。)

① 幼穂長を測り出穂前日数を判断する。

【幼穂長と出穂前日数のめやす】

【葉緑素計と葉色板の読替表(コシヒカリ)】

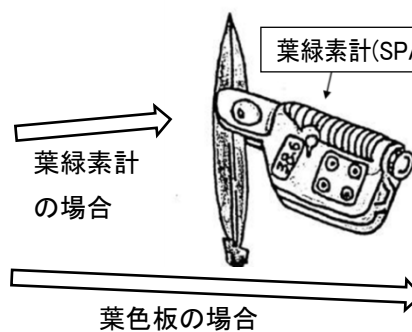
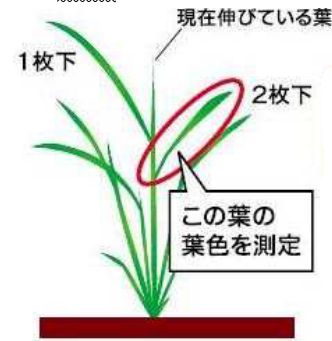
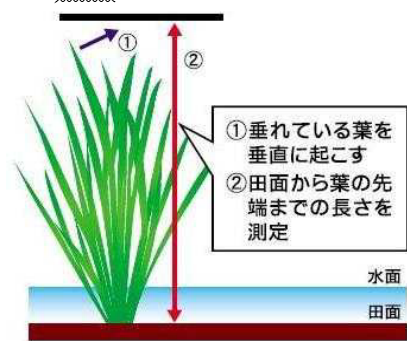


幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2	20日
0.5~1.0	18日
4.0~6.0	12日
10.0~12.0	10日

葉緑素計 (SPAD502) の数値	葉色板(単葉)の数値	
	出穂 24~21 日前頃	出穂 14~12 日前頃
28	3.2	3.6
30	3.6	3.9
32	3.9	4.2
34	4.2	4.5
36	4.6	4.8
38	4.9	5.1

② 草丈を測る。

③ 葉色(単葉)を測る。



◎ 草丈・葉色調査は、水口や畦畔際を除き、ほ場内の生育中庸株5株程度の平均とする。

(2) コシヒカリの穂肥診断 ~上記の調査結果を基に、穂肥時期及び量を判断する~

【1回目の穂肥: 幼穂形成期(出穂 24 日前頃)の生育による診断】

【2回目の穂肥: 出穂 12 日前頃の葉色による診断】

草丈	葉色(単葉)	SPAD値 34~32 葉色板 4.2~3.9	SPAD値 35以上 葉色板 4.4以上
	70~75cm 以内	時期・量とも基準どおり施用 ■ 出穂 18 日前: 1.0kg/10a	時期を遅らせて施用 ■ 出穂 15 日前: 1.0kg/10a
75~80cm 以内	施肥量を減らす ■ 出穂 18 日前: 0.5~0.8kg/10a	時期を遅らせ、施肥量を減らす ■ 出穂 15 日前: 0.5~0.8kg/10a	
80cm 以上	施用できない	施用できない	

出穂 14~12 日前の葉色(単葉) ↓	出穂 10 日前の穂肥量(10a 当たり)
SPAD値 34~32 葉色板 4.5~4.2	基準量どおり施用 1.0~1.5kg
SPAD値 35以上 葉色板 4.6以上	施肥量を減らす 0.7~1.0kg 未満

※2回目穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用する。

◎ 夏が高温で、出穂期3日前の葉色 (SPAD 値) が 31(葉色板 4.0)以下の場合、出穂期前3日に窒素成分で1kg/10a の追加穂肥を施用する。(※葉色が十分確保されていれば不要)

(3) こしいぶきの穂肥診断 ~1 回目の穂肥は、草丈・葉色から判断し、2 回目の穂肥は確実に施用~

【1回目の穂肥: 幼穂形成期(出穂 24 日前頃)の生育による診断】 ※葉色の数値は参考値

草丈	葉色	SPAD値 36以下、葉色板 4.6以下	SPAD値 37以上、葉色板 4.7以上
	60cm 未満	時期・量とも基準量どおり施用 ■ 出穂 23 日前: 1.0kg/10a	時期を遅らせて施用する ■ 出穂 20~18 日前: 1.0kg/10a
60cm 以上	施肥量を減らす ■ 出穂 23 日前: 0.8kg/10a 程度	時期を遅らせ、施肥量を減らす ■ 出穂 20~18 日前: 0.8~1.0kg/10a	

【2回目の穂肥】

- 時期 : 出穂 14 日前
- 施肥量 : 1.0kg/10a
- ※ 低地力地域や後期栄養の不足が懸念される場合は、1.5kg/10a